

### 支部報告

#### 日本医史学会北陸支部近況報告

(支部長) 北陸医史学同好会々長加藤豊明

(連絡場所) 〒九二〇 福井市大願寺三―四―一〇 福井県医師会館内

北陸医史学同好会 電話(〇七七六) 二四―〇三八七

但し、会長宅は左記の通りです。

〒九二三 石川県金沢市野町四―一―二〇 加藤豊明

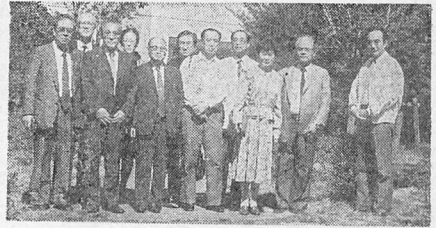
電話(〇七六二) 四一―二四〇八

(入会方法) 当会の名称は北陸医史学同好会と称し、北陸における医史学を愛好する者が相互に連携を計り、お互に研鑽を重ねることにより、医史学の発展に寄与することを目的としています。従いまして、当会この目的に賛同し、医史学に関心を有する人は会員として歓迎します。会費は年額、各自金四千円です。

現在の会員数は、福井県二十八名、石川県三十七名、富山県二十名、その他六名、計九十一名です。

(機関誌) 前記の当会の目的を達成するため、毎年北陸三県を持ち廻りで講演会や研究発表会を開催し、これらの事業を集録して機関誌『北陸医史』を発行しています。

(今年度事業報告) 当会の役員は会長一名と北陸三県から夫々選出された幹事若干名(現在は三県から各県夫々二名宛の幹事が選出され計六名)です。この幹事会の決議によりまして、今年度は



静岡県医史学懇話会では毎秋恒例の行事として、標記の件を東中西の三ブロック持ちまわりの形で開催しているが、今回は西部ブロックの当番で浜松医大の御協力を仰ぐことができ、主題を明治初期の浜松県立病院とその附属医学校および西遠医会関係のものに置いて行うことができた。

参加者は浜松医大構内で撮影した記念写真に見られるように十一名で、浜松医大との接渉開始に遅れて十分な予告期間がとれなかったことなど反省点もあったが、県史の編さんで御多忙中の岩崎鐵志先生が東京から矢部一郎先生を御勧誘下さった上に、案内役から解説役までも引受けて下さったおかげで、これまでになく密度の高い盛り上げた会を催すことができた。

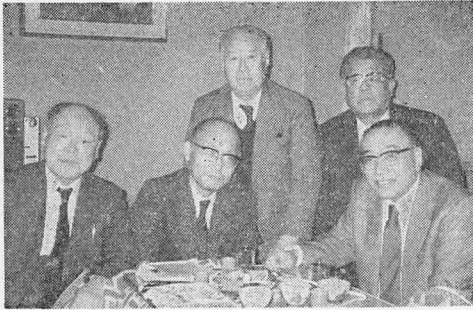
なお、この回を以って三巡目に入ったわけであるが、静岡県医史学懇話会が順調な活動を続けて来られたのは、土屋重朗会長の実績が認められて、県医師会の正式な分科会として発足して助成金まで頂いていることに負うものである。

富山県が当番で、去る昭和六十二年七月十二日(日)午前十時から、富山市総曲輪四一八、富山県民会館七〇四号室で、第九回

北陸医史学会同好会総会並びに研究発表会を開催しました。

一般の演題は十題で、演者は延十四名でした。特別講演として、富山医科薬科大学参与中井精一氏の「献体運動あれこれ」と題された講演があり、日本医史学会関西支部長の長門谷洋治先生が「本邦女医第二号生沢くのについて」と題して講演くださいました。

また当日の第九回総会では、前年度の事業報告や会計報告などを行い、来年度は福井県が当番で総会や研究発表会の準備を



前列左より、加藤会長、多留幹事(石川)、河崎屋幹事(石川)。後列左より岩治幹事(福井)、松田幹事(富山)。

ことを報告承認されました。

なお、機関誌

『北陸医史』第九巻第一号誌は現在編集中です。年度内には発行し会員に配布される予定です。

(加藤豊明)

#### 日本医史学会関西支部近況報告

日本医史学会関西支部の前身、杏林温故会が徳川撰三・中野操・大矢全節の三氏の首唱によって発足したのは昭和十三年一月のことである。従って本昭和六十三年は、当支部の五十周年にあたる。戦前、戦後を通じて終始会の運営にあたってこられ、関西支部長の位置にあつた中野操先生は昭和六十一年三月二十一日、八十八歳で逝去された。当支部としては当分支部長の席は空席のままにしておき、先生の晩年に設けられた事務局により、対処して行きたいと思つている。

当支部はむろん関西地方の会員を主に構成されているが、日本医史学会の関西在任の会員すべてが網羅されているわけではなく、逆に関西以外から入会されている会員も多い。これは本会成立の歴史的経過、中野先生のお人柄によるところも少なくない。また春秋の大会は京都医学史研究会・医学史研究会(大阪)と共催させていただくことが多く、これらの会との交流は密である。また医学切手友の会関西支部にも当支部の会員が多数おられ、関西における医史学は中野先生の拓かれた土壌の上を確固たる足取りで歩み続けている。

本年の春季大会は中山沃会長のもと、津山洋学資料館の協力を得て岡山県津山市で開催される。当支部会員外のかたのご参加も歓迎する。

(連絡場所) 下瓦一堺市新金岡町三一―一二―三〇八 長門谷